

2019 年 1 月

金融機関における人工知能(AI)との共生 ～銀行員はどう生き残るか～

経営学部 経営学科 石塚ゼミ
B5R11099 高野 駿

【卒業論文概要】

かつて「銀行に就職する」ことは、非常に安定した職業に就くことを意味していた。大手の都市銀行にしても地方銀行にしても「まず倒産することはない堅実な就職先」というイメージが強く、実際に銀行に勤めている人は安定した高収入を得ることができるのが一般的だったが、近年、銀行業界には大きな変革期が訪れようとしている。

日本銀行のマイナス金利政策や企業数も人口も減少している影響で、銀行の貸出先が縮小し、利鞘を確保することができず、経営環境が一段と厳しくなっている。その一方、これまで人間が担ってきた銀行業務が人口知能(AI)やフィンテックに代替して、膨大な人数の銀行員が不要になると言われる。このようなことから大手銀行である三菱 UFJ 銀行が、たった 5、6 年で 6000 人もの人員を削減する模様。また、実質的な業務削減量は三菱 UFJ フィナンシャル・グループ：9500 人分の業務、みずほフィナンシャル・グループ：1 万 9000 人分の業務、三井住友フィナンシャル・グループ：4000 人分の業務である。

あくまで人員削減は退職や新規採用の抑制による「自然減」ではあるが、「銀行員」の役割が非常に縮小していることがわかる。

また、金融業界のさまざまな規制緩和が進んだことによって、かつてなかったような新しい形態の銀行が増えてきた。インターネットでの支店で口座を開き、簡単にお金を預けたり引き出したり振り込んだりできる「ネット銀行」がその大きな象徴である。さらに、資産運用の選択肢の広がりとともに、金利が有利な新商品を提案する銀行も多い。

昔のように、自分が住んでいる地域の銀行に口座を開き、貯蓄預金に貯蓄をするのが当たり前ではなくなり、人々は、より高い利益を得られる商品や銀行を求めて積極的に情報収集したうえで自分の資産の預け先を選んでいる。

銀行員は生き残りをかけて、個別のサービスの充実を競い合う時代に突入したと言っても過言ではない。「まじめで誠実で責任感が強い」ということが、今までの銀行員に何よりも求められてきたことだが、競争が厳しくなる時代に銀行員として活躍していくためには、今まで求められていた能力とは異なる、新しい能力が必要になるだろう。

本稿では、今後「銀行員」が生き残るためにはどうすればいいのか、何が求められるのかを考察する。そのため、第 1 章から第 2 章までは銀行の役割、その現状を論じていき「銀行員」が現在、どのような状況であるかを背景に、第 3 章では、仮説を立て、仮説の立証をしていきたい。